

# 令和5年度 学校評価表(自己評価・改善の方策)

一迫商業高等学校

教育目標	1. 協調と奉仕の精神をもって誠実に責任を果たす態度を養う。 2. 自主的な精神に富み、不屈の意志と逞しい実践力をもつ健全な心身を育てる。 3. 科学的な知識とすぐれた技能を習得し、勤労を重んじ、進んで創意工夫に努める態度を養う。 4. 郷土に対する認識を深め文化遺産を愛護し、豊かな情操と高い道德心を培う。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点目標	1. 基礎学力の定着と学力向上 2. 規律ある生活習慣の確立 3. 授業の工夫・改善と指導技術の向上 4. 学校行事の充実と部活動におけるキャリア・アクティビティの推進 5. 進路実現に向けたキャリア教育の推進 6. 地域への貢献と地域企業との連携
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。

A:達成している B:おおよそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない

☆ 学校関係者評価は、次の基準による。

A:適切である B:おおよそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

	努力目標		◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価		
	具体的な取り組み				自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ	
総務・ 進路部	1	PTA・教育振興会・同窓会との連携を通して、保護者に本校の教育方針や指導目標を理解・共感してもらえるよう働き掛ける。	A	○50周年記念式典の準備について、実行委員のみなさんの協力をいただきながら教職員総力で、無事に本番を終えることができた。将来、閉校式(継承式)をおこなう場合、参考になるような資料を残しておきたい。	1	A	A
		PTA・教育振興会・同窓会と連携を図りながら、保護者や地域に本校の教育方針や指導目標を分かりやすく伝える。また、いただいた意見や助言に対して耳を傾け、本校の教育活動の参考にできるように努める。	A			○OPTA活動について、外部講師面接とロードレース大会の保護者協力が予定より少なかった。次年度にむけて、石楠花祭でのPTA企画やロードレース大会での支援の充実にむけて検討していきたい。	A
	2	担任や教科担当等との連絡を密にし、生徒にとって適切な資料の提供が行えるように努める。	A	○図書館の来館者が少なかった。そのため貸出冊数も少なかった。今後は来館者を増やすためにもっと呼びかけていきたい。	2	A	A
		授業での図書館利用を呼びかけ、教科と連携しながら資料提供や展示を行い、言語力・語彙力を高める教育活動への支援を行う。	A			○「図書館だより」を76号の発行に向けて頑張る。	A
	3	創立50周年記念の計画・準備・運営を適確におこなう。	A	○学年との協力の下、個別の行事とならないようつながりを意識して指導にあたりたい。	3	A	A
		記念品のデザイン、式典の内容、記念誌の誌面検討等の工程を定めて期日に間に合うよう作業していく。	A			○面接練習の振り返りにipadを使うなど、生徒に主体的に進路活用に臨ませることによって進路決定100%を目指したい。	A
	4	1、2学年では自己理解・自己開発に努め進路意識の高揚を図るとともに進路計画の検討と実践に努める。	A	○面接練習の振り返りにipadを使うなど、生徒に主体的に進路活用に臨ませることによって進路決定100%を目指したい。	4	A	A
		入学から2年生終了までに、ガイダンスや講話、インターンシップを行い、進路意識の向上を図り、さらに進路計画の検討と実践につとめる。	A			A	A
	5	3学年は自己の将来設計を確立し進路希望の実現を図る。	A		5	A	A
		3年生では1、2年生で得た知識・諸活動をもとに希望進路の実現をはかる。また、社会人として恥ずかしくない資質を身に付ける。	A			A	A

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。

A:達成している B:おおそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない

☆ 学校関係者評価は、次の基準による。

A:適切である B:おおそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

	努力目標	◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価			
	具体的な取り組み			自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ		
教務・ 情報部	全ての生徒に「わかる」授業を行います。	A	○生徒への授業評価アンケートより「先生が学習する内容のポイントを明確に示している」の項目で平均87.5%と高い評価だった。分析結果を基に、どのような教え方が「わかる授業」に結びつくのかを全体へ提示できた。	1	A	A	
	生徒からの授業評価を活用し「わかる授業」とは、どのような授業なのかを研究分析し、全体へ情報発信する。	A			A	A	
	全ての生徒に「できた」と実感させます。	A	○KGタイムや朝学習を活用し、学年と教科が連携して学習指導を行うことができた。基礎力診断テストを活用することで、生徒の基礎学力を見える化し、教科や学年の分析を通して具体策を提案することができ生徒のやる気を引き出すことができた。また、生徒の学びに向かう姿勢を高めるために、二者面談期間を設定し、生徒へフィードバックできた。		2	A	A
	教科担当者と学年団が連携しながら、生徒の基礎学力を向上させる。生徒に基礎力診断テストの結果を振り返らせることで、生徒に「できた」を実感させる。	A				A	A
	全ての生徒の「やろう(やる気)」を高めます。	A	○オープンキャンパスでは市内高校で唯一2回実施し、中学生が楽しめる装飾や演出ができた。出前授業では商業科と連携し、活動を続けてきた結果、昨年まで申し込みがなかった中学校からの申込があった。	3		A	A
	生徒が勉強を「やろう」と思えるように、基礎力診断テストと関連付けた「BINGO」「二者面談」などを実施する。生徒と担任が一緒になって学習活動を振り返ることで、生徒のよさや特性を把握してもらう。この取組により進路決定を円滑に進め、進路達成に向けての学習意欲の向上を図る。	A				A	A
	観点別学習状況評価の質を高め、評価に係る教師の力量の向上を図る。	A	○考査ごとに「観点別評価内訳表」の作成・提出することを通して観点のバランスを意識して評価することにつながった。今後、課題点等を集約・整理し次年度につなげていく。		4	A	A
	考査毎に評価の実践事例を蓄積・共有していき、教師同士で話し合い、よりよい評価の在り方について研究する機会を設ける。	A				A	A
	仕事の情報推進化(仕事のデータ化、オンライン化、ICTを活用した効率化)に努めます。	A	○iPadの整備と活用について、iPadを使用したいのに充電できないことが起きている。使用後にケーブルを確実に差す等の確認をしたい。また、更なる活用の手立てを提案したい。	5		A	A
	仕事の効率化を図るために校務分掌全体から情報を募る。学校全体の情報化を推進し、教職員の仕事の生産性を向上させる。そのことにより、一人ひとりの生徒と接する時間を増やす。	B				A	A

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。

A:達成している B:おおよそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない

☆ 学校関係者評価は、次の基準による。

A:適切である B:おおよそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

	努力目標	◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価		
	具体的な取り組み			自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ	
生活 支 援 部	生活指導の徹底	A	○頭髪・服装の基準に基づき、共通意識をもって指導を徹底するなかで、特に男女ともに視力低下を防ぐ観点から前髪が目にかからないよう指導を徹底する必要がある。	1	A	A
	1 服装頭髪検査の実施や日常での積極的な指導を実施する。	B			A A A A	A A A A
	交通安全の推進	A	○交通安全指導として、バイク実技講習を今年度は年2回実施した。生徒の生命を守るために効果的であり、継続して行う必要がある。また、マナーアップ街頭指導として、4～11月に月1回実施。バス通学生徒の増加と自転車通学生徒の減少で街頭に立っても生徒が通らないことを受けて、街頭指導の在り方を変えた。のぼり旗をリニューアルし、県道にて運転手向けにマナーアップを呼びかけることができた。	2	A	A
	2 交通安全講話・バイク実技講習会の実施・自転車点検を実施する。	A			A A A A	A A A A
	生徒会諸活動の活性化	B	○生徒会執行部の活動としてコンタクトレンズ容器の回収を行い、HOYAへ郵送。協力校として表彰状をいただきました。今後は更にあいさつ運動、ごみ拾い等を実施したい。 また、コロナ感染症第5類の引き下げに伴い、学校行事が順調に回復。特に文化祭(石楠花祭)は数年ぶりの人数規制を設けずに一般公開を実施。ポスター配布をはじめ、受付方法や駐車場所確保、駐車誘導など遺漏なく「おもてなし」の精神で招待することができた。	3	A	A
	3 部活動への積極的取り組みやボランティア活動参加への声掛けを行う。	B			A B B A	A A B A
	盗難防止と不審者対策	A	築館警察署と共同で実施したアルカス活動として、闇バイトへ加担しないこと、防犯対策(なりすまし等)の啓発を地域住民と協力し実施。文化祭にて、生徒会が活動を報告し全校生徒へ周知することができた。	4	A	A
	4 常日頃から校内外の巡回や昇降口でのあいさつ、服装指導を行う。	B			A A A A	A A A A
	生徒の健康管理および保健・衛生の推進	A	○生徒人数・清掃監督不足による未清掃箇所の解消を図るため、今年度より通常の清掃分担区に加えて月末の「特別清掃区域」を設け、パランスよく分担し美化清掃に努めることができた。また、保健だよりを毎月発行し、感染症対策、熱中症対策などその時期のトピックを取り上げ、生徒・教職員へ周知できた。	5	A	A
	5 毎日の健康観察や保健だよりの発行による保健指導を行う。	A			A A A A	A A A A
	安心安全な学校生活の充実	A	○「IAT・アセス」を今年度より実施。担当者が一人ひとり抱える不安や症状を情報として吸い上げ、学年・担任へ共有することで、個々の対応ならびに学級経営に生かすことができた。また、今年度より、特別活動としての文化祭・ロードレース・スポーツフェスティバルなどの学校行事後にFormsの入力を促し、評価記録をまとめ、シート作成と各学年へ共有することができた	5	A	A
	6 各種講演会の実施による、生徒の安全で安心な生活のための指導を行う。	A			A A A A	A A A A

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。

A:達成している B:おおよそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない

☆ 学校関係者評価は、次の基準による。

A:適切である B:おおよそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

	努力目標	◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価			
	具体的な取り組み			自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ		
一 学 年	自律した規律ある生活習慣の確立	B	○大部分の生徒は清潔感のある頭髪服装をしていた。一部の生徒に乱れは見られたが、担任指導により改善している。特定の生徒に欠席・遅刻・早退の増加見られたが、指導により改善されてきている。	1	A	A	
	欠席、遅刻をせずに登校し、授業等に参加できるよう、体調や生活リズムを整える。自ら挨拶をするなどの礼儀を身につけ、モラルやマナーのある行動をとる。	B			A A B A	A A A A	
	基礎学力の定着と学力向上、学習習慣の確立	B	○授業時間を中心に点別評価による。指導と評価を実施して生徒の学習への取組改善を行った結果、欠点保持者を2名までに減らすことができた。基礎力診断テスト結果、A3の生徒がB3に落ちてしまったが、CからBに上昇した生徒もいる。生徒の傾向は、問い自体の理解ができていない生徒が多く。今後は、語彙力の向上を目指す。	2	A	A	
	授業や課題に主体的に取り組み、自ら考えながら学ぶ習慣を身につける。KGタイムに国数英の学び直しを行い、基礎力診断テストGTZ・D2以上を目指す。朝学習に取り組み、各種検定合格を目指して学習する。	B			A B B B A	A B A A A	
	学校生活の充実	B	○HR活動や学校行事を通して、生徒間の交流が活発になり新たな人間関係を構築する生徒が増えた。そのため、多少の軋轢は生じたが、その経験を踏まえて適切な人との距離感を学習し、学校生活の充実を図る生徒が増えた。高校生として適切な交流ができるよう支援していきたい。	3	A	A	
	HR活動や学校行事、キャリアアクティビティの活動に積極的に参加し、様々な人間関係を築く。お互い対等に尊重し合い、誰もが安心して充実した学校生活を送れるようにする。	B			A B B B A	A B A A A	
	進路意識の確立	A	○進路指導を通して、卒業後の自身の夢や目標を持つ生徒が増え、進路に関する意識が向上してきている。各進路ガイダンスでは、集中して参加している生徒が多く見られた。今後は進路達成に必要な要件を認識させ、早い段階から進路活動をおこなえるよう指導していきたい。	4	A	A	
	教員や保護者との面談や進路行事等を通して、将来の進路についての関心を高める。奉仕活動に参加したり、新聞を読んだりする機会をもうけ、地域社会に目を向ける。	A			A A A A A A	A A A A A A	
	二 学 年	規律ある生活習慣の確立	B	○大部分の生徒は清潔感のある頭髪服装をしていた。8時40分には登校している生徒が大部分である。同級生や教員に対する言動に関して、個別に担任指導をした生徒が数名いた。大人に対して、正しい敬語を使える生徒が多くない。	1	A	A
		清潔感のある頭髪・服装をし、定時着席を徹底するなど、規律を守ることが意識して生活する。また、自ら挨拶をしたり、正しい敬語を使ったりするなど、礼儀を身につける。	B			A B B B A	A B A A A
		基礎学力の定着と向上	B	○授業時間を中心に学習内容理解に努めていた。そのことにより、国数英それぞれのGTZ上昇生徒数は、4月の基礎力診断テストで延べ32人(約30%)で、8月には延べ48人(約44%)と上昇した。また、それぞれのD3生徒数は4月延べ43人(約40%)、8月延べ31人(約29%)だった。つまり、D2以上が4月は約60%、8月は約71%と減少した。資格取得にむけて生徒自身に取得したい検定を目標として定めさせ、朝学習の計画を立てさせている必要がある。	2	A	A
		商業科目の授業理解を深め、朝学習も活用して、各種検定合格に向けて意欲的に学習する。KGタイムに国数英の学び直しを行い、基礎力診断テストでGTZ・D2以上を目指す。	B			A B B B A	A B A A A
学校生活の充実		A	○委員会等において、自分の果たすべき役割を認識し、その責任を果たそうとした。多くの生徒が、積極的に部活動や学校行事等に参加している。日常生活において、様々な理由で部活動に参加しない生徒への対応が課題である。	3	A	A	
クラス・委員会等、集団における自分の果たすべき役割を認識し、誠実にその責任を果たす。積極的に部活動や学校行事等に参加し、コミュニケーション能力や社会性を養う。		A			A A A A A	A B A A A	
進路意識の拡充		A	○進路意識の拡充にむけて、多くの生徒が自分の進路選択を意識してインターンシップ先を考えることができた。進路ガイダンスや進学相談会に参加して情報収集を行い、方向性は定まりつつある。今後の課題として、具体的な希望進路(進学・就職)が明確でなく進路達成に向けた取り組みができていない生徒も半数以上いる。	4	A	A	
インターンシップ等を通して、自分の将来について適切に考える勤労観・職業観を育む。進路活動の方法を学んで自ら情報収集を行い、家族と相談しながら進路の方向性を定める。		A			A A A A A	A B A A A	

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。

A:達成している B:おおよそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない

☆ 学校関係者評価は、次の基準による。

A:適切である B:おおよそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

	努力目標	◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価	
	具体的な取り組み			自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ
三 学 年	奉仕の心構えと規律ある生活習慣の継続	A	○服装・頭髪については問題なく、挨拶や礼儀なども概ね良好である。ほとんどの生徒が遅刻や欠席をせずに登校した。一部、欠席が目立ち心配された生徒に対しても、電話連絡や家庭訪問などにより早期に対応した。	1	A A A A A
	欠席・遅刻者ゼロを目指す。最上級生として模範となり、積極的に規律を守ることを意識して生活する。また、一商生にふさわしい清潔感ある頭髪・服装で生活し、積極的な行動を実践し、挨拶などの礼儀を重んずる。ボランティア活動へ積極的に参加する。	A			
	継続した基礎学力の向上	A	○朝学習は、SPI問題集の活用や個人毎の進路別活動、検定対策など、必要な時期に適切な取り組みを行うことができた。8月に行われた基礎力診断テストは、全体のGTZを下げることなく、真剣に取り組んだ様子が窺えた。	2	A A A A A
	検定対策や授業、家庭学習に主体的に取り組み、SPI・一般常識なども含めて基礎学力の向上に粘り強く取り組む。また、デュアルシステムの学習を通して、社会で求められる実践的な勤労観・職業観やコミュニケーション能力を磨き、社会人となる心構えを作る。	A			
	模範となる学校生活の充実	A	○学校行事等への取り組みは昨年に引き続き良好である。最上級生であることを自覚し、後輩の手本となるべく学校全体をリードした。仲間を自然に応援する雰囲気は、今年度も継続された。	3	A A A A A
	最上級生であることを自覚した行動をとり、後輩の良き手本となるよう、HR活動や委員会活動、学校行事、部活動等に積極的に取り組み充実した学校生活を送る。お互いを尊重し、思いやりのある言動をこころがける。	A			
	進路達成	A	○進路達成へ向けて、主体的・計画的に行動することができた。指導に関わっていただいた他学年の先生方には感謝したい。1回目の試験が不合格となった就職希望者も、次への動き出しが早く、適切に指導することができた。	4	A A A A A
	進路達成へ向けて目標を見据え主体的・計画的に行動する。進路に関して幅広い視野を持ち、学校・企業に関する情報を積極的に収集する。また、報告・連絡・相談を怠らず進路実現のため最後まで諦めず努力する。	A			
学校関係者評価委員の意見・要望等	<p>◆いじめ問題は、家庭環境も大きいと思われ、生徒だけでなく、保護者を含めた外部指導者からの助言も入れてはどうか。</p> <p>◆今の若者は、何のために行くのか、納得しない事は嫌がる傾向にある。目標・目的を定め、方法は生徒に考えさせる事が必要と思う。</p> <p>◆デュアルシステムに力を入れて実施(実行)していることに、頭が下がります。資格取得についても、8種目も取得した生徒がいることに、感激しました。先生方にはお忙しい中、ご指導いただき、大変ありがたく思っています。次年度もしっかり指導してください。</p> <p>◆日頃より、教職員の皆様の熱心な取り組みに私自身も勉強させていただいております。</p> <p>◆今後のご指導も楽しみに(期待)しています。</p>				